慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済学名著解題 一千八百五十三年初版カール・クニース著 歴史的方法の見地よりする経済学
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1942
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.36, No.6 (1942. 6) ,p.515(73)- 527(85)
JaLC DOI	10.14991/001.19420601-0073
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19420601-0073

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

是れ北條五代記と名付たり云々」（北條五代記。史籍集覽第五冊卷之七による）とあつて、こゝでは參考に留めた。

(61) 地獄網といふ呼稱は各地にあるが、殆ど多くの場合それは全く別個の網を呼んでおる。但し俗に地獄網といふときに共通する要素は、魚類が一度これに入れば遁れ出ること難く多くは優秀の漁網に名くるも必しも進歩した漁具とは限らない。要はその土地にて新規で多獲し得る構造のときは斯く呼ぶやうである。地獄とは魚類にとり一種の地獄といふ意ならん。

(62) 靜岡縣史料　第一輯　五五九頁
(63) 同　上　五六〇頁
(64) 同　上　五六四―五頁
(65) 同　上　五六七頁
(66) 相州文書　二十一大住郡乾　史料編纂所々藏
(67) 同　上　二十四三浦郡　同　上　五七三―四頁
(68) 靜岡縣史料　第一輯　九頁
(69) 豆州內浦漁民史料　上卷　五七七頁
(70) 靜岡縣史料　第一輯

むすび

本來ならば結びとして、こゝに結論的要約を必要とするのであらうが、もとくこの小文は近く「拓殖論叢」（日本拓殖協會報）に於て發表せんとする「關東漁業の近世的發達と上方漁民の役割」の序說とも見るべきものであるから、今こゝでの結論は全部を省略し、右の論文に讓ることゝした。なほ「豆州內浦漁民史料」に關する研究は近く刊行せらるゝ「遠澤漁業史研究室報告」第二輯に發表した、併讀を望む。

經濟學名著解題

一千八百五十三年初版カール・クニース著『歷史的方法の見地よりする經濟學』

高橋誠一郎

一

ヴィルヘルム・ロッシャー及びブルノー・ヒルデブラントと共に、獨逸歷史學派創設者のトリオの一人に數へられてゐる經濟學者にカール・グスタッフ・アードルッフ・クニース（Karl Gustav-Adolf Knies）がある。

クニースは一千八百二十一年三月二十九日、普魯西ヘッセ・ナッサウ州マーブルグ町に生れ、一千八百四十六年、ハイデルベルグに於いて歷史及び國家學員外講師たるの資格を得、ヘッセの方伯フィーリップによつて建設せられたマーブルグ町の大學に於いて、暫時、歷史及び國家學を講義し、又、カッセルの工藝學校に教鞭を執つて居つた。彼れは一千八百四十八年の政變によつて一時獨逸を去り、瑞西シャッフハウセンに於いて教師となつたが、幾許もなく一千八百五十五年、バーデンのフライブルグ大學官房學教授に任命せられ、一千八百六十一年から同六十五年に亘つて同大學を代表してバーデン大公國議會第二院に列し、自由黨に屬し、而して同黨の山外主義

(Ultramontanismus) 即ち法王無上權論との闘爭に於いて同黨を指導し、一千八百六十二年には内務省教學局長となつたが、同六十五年、教授生活に復歸し、ベイテルベルク大學國家學教授に任命せられた。彼れは又、一千八百六十二年から同六十五年に亘つてバーデンの初等及び中等學校の行政的監督を行つて居つた委員會を主宰した。彼れは更にベイテルベルク大學の教授職に留まり、之れを辞して間もなく、一千八百九十八年八月三日を以つて逝去した。

彼れはリンデルンで出版した学業論文 Historia Praenestis (Latii) oppidi. Praecedit nominis explicatio et topographiae brevis expositio. を初めとして、一千八百四十八年にはマールブールグに於いて Ueber die in Kurhessen angeregte Forderung eines konstituierenden Landtages. を、一千八百五十年にはカッセルに於いて Die Statistik als selbständige Wissenschaft. Zur Lösung des Wirrsals in der Theorie und Praxis dieser Wissenschaft. Zugleich ein Beitrag zu einer kritischen Geschichte der Statistik seit Achenwall. を、一千八百五十三年にはブラウンシュヴァイヒに於いて Die Eisenbahnen und ihre Wirkungen. を、一千八百五十七年にはチュービンゲンに於いて Der Telegraph als Verkehrsmittel. Mit Erörterungen über den Nachrichtenverkehr überhaupt. を、一千八百六十年にはフライブルグ・イム・ブライスガウに於いて Die Dienstleistung des Soldaten und die Mängel der Konskriptionspraxis. Eine volkswirtschaft-finanzielle Erörterung. を、一千八百六十二年には同地に於いて Zur Lehre vom volkswirtschaftlichen Güterverkehr. を、一千八百七十一年にはベイテルベルクに於いて Finanzpolitische Erörterungen. Rede zum Geburtsfeste des Grossherzogs Karl Friedrich von Baden. を、一千八百七十三年から同七十九年に亘つて伯林に於いて Geld und Credit.(第一部 Das Geld. Darlegung der Grundlehren von dem Gelde, mit einer Vorerörterung über das Kapital und die Uebertragung der Nutzungen. を七十三年、第二部 Der Kredit. 第一半、總論、第二半 Das Wesen des Zinses und die Bestimmungsgründe für seine Höhe. Wirkungen und Folgen des Kreditverkehres. Die Kreditinstitute. を七十六年及び九年に）を（第一部は八十五年再版）一千八百七十四年には同地に於いて Weltgeld und Weltmünze. を、一千八百九十二年にはベイテルベルクに於いて Karl Friedrichs von Baden brieflicher Verkehr mit Mirabeau und Du Pont. Herausgegeben von der Badischen Historischen Kommission. Bearbeiter und eingeleitet durch einen Beitrag zur Vorgeschichte der ersten französischen Revolution und der Physiokratie von K. Knies. 二巻を出した外、雲雖的出版物及び定期刊行物に幾多の勞作を發表したのであるが、而も其の主著と看做されてゐるものは、一千八百五十三年に初版を出した Die politische Oekonomie vom Standpunkte der geschichtlichen Methode. である。本書の出版者はブラウンシュヴァイヒのシュヴェツケ及びソーン (C. A. Schwetschke und Sohn) である。此の書は八折判前附十二頁本文三百五十五頁より成る。

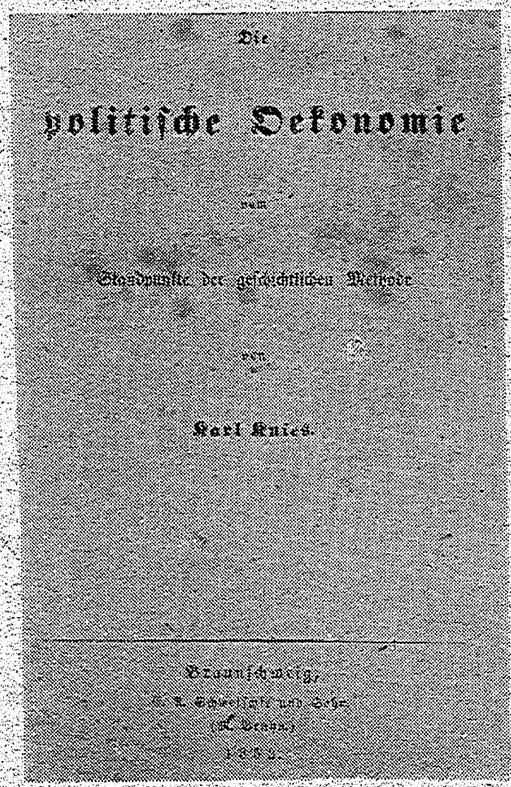
II

本書は（一）「緒言」（二）「國民經濟」（三）「國民經濟學」の三部から成る。彼れは第一部に於いて政治的經濟學史上に於いて既に成されたる業績を特性附け、而して、歴史的方法を他の方法と對比する。

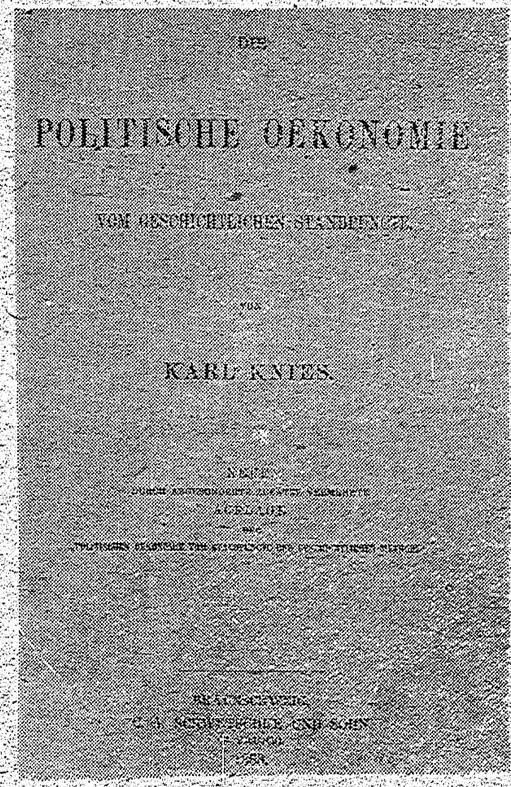
著者に從へば、政治的經濟學の歴史的發達は、是れ迄は單に歴史的攻究及び説明の對象としてのみ注意せられたに過ぎなかつた。歴史的攻究が必然國民經濟的生活現象の領域に擴張せられ增强せらるゝ可きことは當然の順序に外ならざるものである。蓋し、時代及び國民は經濟的關係に於いて實質的にも性格的にも其の特性を表現したが爲めであつて、斯くて、前時代に行はれた理論的意見及び考察、目的點及び論證方法に關する歴史的證左の追求が現在

如何なる利益を有するか」と云ふ問題が期待せられなければならぬことゝなつた。著者は曰く、吾人は今や最も遠く纔くて斯くの如き斷片的判斷の纔くてを題えてゐる。而して、吾人は單に微笑を浮べ、首を振つて是れ等のものを回顧することを得るのであると。彼れは本書が充分に斯くの如き異議に對する回答を與ふ可きであると信ずる。此の點に於いて、彼れは、國民經濟的狀態並びに國民經濟理論の歷史的發達に關する不完全なる考察が國民經濟學者の態度の上にも、又其の結論の上にも不幸なる影響を有して居つたことを概括的に答へる。（Ib., S. 17-18.）。

彼れは最きに本書中に於いて、政治的經濟學の歷史的發達なる辭句を之れをして一の理論的（theoretisch）、定律に對する一方式たらしむるの意味に於いて使用した。斯くの如き定律の基礎を成す政治的經濟學の課題に關する見解は理論の絕對主義（Absolutismus der Theorie）に對して對句を形成する。彼れは理論の絕對主義によつて、無制限的に、纔くての時代、地方及び國民性に對して等しく有效なるものを政治的經濟學の課題の科學的勞作に提供せんとする要求並びに這樣の課題を解明せんとするの努力を意味する。理論の絕對主義の二形態は領域的及び時間的相違を顧みざる「萬民主義」（Kosmopolitismus）及び「永久主義」（Perpetualismus）である。理論の絕對主義に對して政治的經濟學の歷史的把握は下の如き根本原理に基礎を置くものである。經濟的生活狀態と等しく政治經濟學の理論も亦、吾人が如何なる形態及び相續に於いて、如何なる議論と結論とを以つてこれを看出すことを問はず、歷史的發達の成果であること、それは時間、空間、國民性の諸條件を以つて、又、是れ等の諸條件から一の人類的及び民族的時期の全機構と生々とした結合に於いて發生し、是れ等の條件と共に存續し、而して漸次前進的發達を來すものであること、それは歷史的生活に其の推理の基本を有し、其の結論に歷史的解決の性格を附加しなければならぬこと、國民經濟の一般的部分に於ける「一般的法則」は眞理の歷史的說明（Explication）及び進步的表明


Die
politische Oekonomie
vom
Gesichtspunkte der geschichtlichen Methode
von
Karl Knies.
Braunschweig,
C. A. Schwetschke und Sohn
(M. Bremer.)
1853.

一千八百五十三年初版扉


DIE
POLITISCHE OEKONOMIE
VOM GESCHICHTLICHEN STANDPUNCT.
von
KARL KNIES.
NEUE
BRAUNSCHWEIG,
C. A. SCHWETSCHKE UND SOHN
1883.

一千八百八十三年新版扉

（fortschreitende Manifestation）を叙述するに外ならざるものであり、各階段に於いて發達の一定點に至る迄を認識せられた眞理の一般化を表明するに過ぎざるものであつて、總體に於いても、又、法式化に於いても、無條件的に完全なることを宣言し得ざるものであること、並びに、理論の絶對主義は、そが歴史的發達の一階段に於いて效力を有する場合に於いても、其れ自體單に斯くの如き時代の産兒として存在し、政治的經濟學の歴史的發達に於ける一定階段を表示するに過ぎないことが是れである。（Ib., S. 18-19.）。而して、玆に彼れが差し當り單に全然概括的に這般の政治的經濟學の把握を法式化しつゝあつて、其の精錬を本書の後の部分に委せざるを得ざる間に於いて、彼れは這般の把握の實現に取り多くの實り豊かなる種子が特に獨逸に於ける彼れと同時代の國民經濟學上の著者の一部によつて既に植え附けられたと云ふ考によつて鼓舞せられた。是れと同時に、學説の絶對主義は現在の重要なる著書に於けると等しく、最も近き過去の最も著名なる製作に於ける最有力なる概念であつたことが承認せられなければならなかつた。（Ib., S. 20.）。

次いで、クニースは這般の歴史的見地から重商主義、重農主義者、アダム・スミス、アダム・ミュラー、フリードリッヒ・リスト、ハインリッヒ・シュトルヒ、ラウ、ヴィルヘルム・ロッシャー、ヒルデブラント等を論評する。彼れはロッシャー及びヒルデブラントの孰れよりも古典學派に對して斷乎たる反對論者たるの觀を有するものであり、而して又、是れ等歴史學派の先輩に對してすら假借する所なく論評を下すものである。彼れはロッシャーの混亂を認める。彼れはロッシャーが經濟學的研究の種々なる部門の範圍、方法及び目的の關係を明かに把握することなきものと觀る。彼れはロッシャーの古典的方法の改修的是認に反對する。而して彼れはヒルデブラントに於いてすら歴史主義の使命を體得すること不完全なるを看出す。彼れはヒルデブラントの發達の法則を以つて純粋理論に對して讓歩する所が猶ほ多きに過ぐるものであると思惟する。（Ib., S. 20-36.）。

第二部に於いて、歴史的國民經濟の具體的根本條件並びに時代の移動、歴史的勢力の影響及び具體的形態が述べられる。各國民の經濟は其の特殊領域、其の人種的並びに其の他の肉體的及び精神的特質、其の資本の大いさ、其の土壤の消耗の程度等の影響を受けるばかりでなく、又政治的國家權力、宗教及び教會、支配的思想及び精神的動搖によつて影響せられる。國民經濟は總べての歴史的國民生活と單一的連繋に於いて存する。（Ib., S. 37-123.）。

第三部に於いて、國民經濟學の研究範圍、課題及び方法が考察せられる。各個の科學の特性は其の研究の範圍、之れに與へられる課題、並びに之れを解明しなければならぬ方法によつて決定せられる。國民經濟學の研究範圍を供することは疑問を挾むの餘地なき所である。而して、國民は此處彼處に於ける同樣の個人の總括的にして外部的に境界を定められた集合ではなく、特に普く國民性及び歴史的經驗によつて特性附けられたものである。經濟の概念は「財貨」の概念に依存する。然るに、經濟財の相異れる概念決定の數は本質的に相違せる國民經濟學説の數よりも多い。一般生活上に於ける言語の用法も亦何等の援助をも與へるものでない。國民經濟學に取つては、單に經濟財のみが（此の點、一千八百八十三年の新版では「單に人間或ひは又、國民をして一の節約的行爲に出でしむる外部的財のみが」と訂正せられてゐる）考察せられる。經濟行爲は單に經濟財の産出及び贏得のみならず、其の供用及び消費にも亦現れる。次いで、著者は國民經濟を私經濟から區別する。私經濟的見地は獨立した單位を觀、國民經濟學は常に總べての個別經濟の其の相互的結合に於ける總體を眼中に置く。私經濟に在つては其の經濟的努力及び生活は單に瞬時的存在を有するに過ぎないのであるが、國民經濟に在つては一國民の總べての世代を通じて永續する存在を有する。（Ib., S. 124-129.）。

クニースに從へば、在來の學說の二個の絕對的假定は、絕對に同一、恒久且つ無制限なる權利としての私有財產並びに利己心及び物質財に對する人間の不變的關係である。彼れは希臘人、羅馬人、最古獨逸人の間に於ける私有財產に就いて述べ、又アダム・スミス及びラウに於ける利己心の敎義を論じ、歷史、心理學及び人間の道德的目的から之れを批判し論結する。私有財產の槪念は變化しつゝあるものであり、利己心は往々にして社會的福利と衝突する。彼れは是れ等兩者の歷史性を主張する。(Ib., S. 130-168.)。如何なる種類の勞働が生產的であるかに關しては、是れ迄に種々なる觀念が行はれて來た。評價其の者も這般の變化しつゝある假定に基礎を有するものである。彼れは國民經濟學の歷史的推移及び其の發生の時期との關係を稍や詳細に述べて、國民經濟と國民經濟學との間に於ける相對性の觀念を展開する。彼れは產業的階段と斯學の發達との間に一定の關係あることを信ずる。(Ib., S. 168-206.)。彼れは次いで個人と國民との間及び諸階級間に於ける利害の衝突を論じ、自然法則及び社會法則に就いて述べ、國民經濟的法則を以つて函數的のものと做し、而して、相對性の法則(das Gesetz der Relativität. 再版に於いては、「相對性原理」(das Princip der Relativität に改めてゐる)を表明する。(Ib., 5, 6, 8.)。

クニースは又、經濟問題の解決に取つて、非經濟的なる要素及び財の重要なる所以を認める。人が實際生活の經濟的事實を國民經濟的理論の根本となすこと愈々確然たるに至ると共に、現實と矛盾するの結果に到達するを避くるが爲めには、彼れは純然たる經濟的本性を有することのない要素をも考察しなければならぬことが愈々確實となるであらう。彼れは、歷史的見地に立脚する國民經濟學に取つては、倫理的政治的科學に經濟學を高めることは單純なる必然的の事實であると確信した。蓋し、人間の心理學的研究及び國民生活の歷史的探求は、直接に之れを導いて、總べての經濟生活及び活動が事實上國民の全生活と極めて緊密なる關係に於いて立つこと、そは常住不斷全體の最高任務と關聯し協力すること、何物と雖も倫理的なるものほど永續性を有し倫理的及び政治的成全に對する努力が國民的存在及び國民的發達の總べての機能を徹底せしめ決定する生活力であることを承認せしめるが故である。全生活の範圍內に於ける經濟行爲の相對的地位は種々なる時に於いて、又、各個人及び全國民に於いて不同であることが明かであるが、恰も這般の事實は經濟學說に於ける倫理的政治的要素の重要なる意義を立證するものである。自由の意志決定の實際の意義に關する人間の胸中の意識は攻擊し得ざるものではないが、而も、永久に論破することの出來ぬものである。而して彼れは歷史的生活の發達を注視するに際して、人間行爲の自由と相並んで、發達の必然性を假定することを否み得ないのであるが、彼れは又、經濟的財貨生活に於いて、自然法則的現象の因果性と相並んで、人間の倫理的に自由なる目的の因果性を拒否し、若しくは等閑に付せしむることにも反對するものである。(Ib., S. 320-321.)。

彼れを以つて觀れば、一の科學的訓練に於いて適用せられるに至つた研究・立證及び論斷の方法は疑ひもなく其の總體の性格と最も緊密なる關係に立つものである。斯くて一科學の全過程に於ける進步は、特に之れに於いて有效なる方法の上に作用し、又之れと反對に研究方法に於ける著大なる改善は孰れも其の科學全體の上に最も重要なる影響を及ぼして來たのである。(Ib., S. 321.)。而して、彼れは歷史的研究を奬勵し、其の結果を利用せんとして居つたのであるが、而も彼れの著は幾多の靑年學徒をしてロッシャーによつて彼れ等の爲めに指示せられた道を辿り經濟進化の法則を探究することから轉向せしむるに資する所があつたと言はなければならぬ。彼れはロッシャーの認めたやうな「自然法則」の存在を疑つたのである。單に類似してゐるのみで、同一ではない歷史的狀態の比較からロッシャーは因果法則を確立し得可しと信じたのである。彼れは、吾人が云々することの出來る一切のものは、

種々なる國々の發達によつて示された一定の類似の存することであつて、絶對に同一なる因果關係の法則は得達せられないものであると思惟した。吾人は經濟的現象中に正規的に生起しつゝある類似を明かにするを以つて任務とする。「斯くて類似と相違とが等しく考察せられる現象及び現象の法則が取扱はれるならば、吾人が期待することの出來るのは單に經濟現象の類似のみであつて同一ではない、而して絶對に同一なる因果關係の法則は獲得せられないで、單に類似の法則のみが得達せられ得るに過ぎない。」（Ib., S. 348.）。

三

クニースは本書出版の後三十年、即ち一千八百八十三年に至つて其の改訂增補版を公にした。出版者は前版と同樣である。新版は八折判前附十二頁本文五百三十三頁より成る。

著者は此の第二版に於いて、第一版の表題に現れた「歷史的方法の見地よりする」（vom Standpunkte der geschichtlichen Methode）なる辭句を「歷史的見地よりする」（vom geschichtlichen Standpuncte）と改めてゐる。即ち全表題は下の如くである。Die politische Oekonomie vom geschichtlichen Standpuncte. 彼れは第二版の序文中に於いて斯くの如き改題の理由を次ぎの如くに述べてゐる。「斯くて又、本來の方法論的意義に於いては『政治的經濟學の歷史的方法』なる稱呼は、單に歷史的探求と歷史上に於ける經濟的團體に關する報告のみが政治的經濟學の課題として認められるとしたならば、初めて無條件的に許容せられ得るのである。吾人は最大なる語勢を以つて、又、最强なる音量に於いて、吾人をして考察其の良しきを得たる方法に於いて歷史の上に依附し依賴せしめることを得るのであるが、然も猶ほ吾人は是れが爲めに曾つて經濟史と政治經濟學との間に於ける、若しくは歷史家の專門的任務と國民經濟學者の其れとの間に於ける區別を等閑視するに委したことがない」と。（Ib., 2 Aufl., Vorwort, S. vii.）。

彼れは新版の初めに政治的經濟學の一般的特徵、政治及び社會諸科學中に於ける其の地位並びに政治及び社會諸科學が科學全般中に於いて占むる地位を論じた一節を附加した。彼れは政治的經濟學を以つて自然科學及び精神科學の孰れにも屬するものではなく、社會に於ける人間を其の歷史的發達の名辭に於いて研究するを其の目的とする歷史的學科の集團中に屬するものと做した。（Ib., I. 1.）。

クニースは彼れと所謂「イデアリスト」との相違を述べて、後者は「吾人が經濟生活に於ける現實にして且つ直接なる條件の知覺し得る、又知覺せられた根本原理によつて不可能と稱せざるを得ない狀態を要求し、彼れ等が生活の意義によつて彼れ等の絶對に完全なる狀態を靜止的ならしめようと欲するに對し、吾人は實證的與件の基礎から、又、其の上に而して經驗が其の實在を確立した方法を以つて、「何である可きか」の問題、換言すれば、吾人が既に到達せられた現在の形態と等しく、不斷に推移する發達上の點と見る目標に向ふことが出來る」と說いてゐる。（Ib., S. 42.）。

彼れに從へば、經濟學の研究對象は歷史的現象界の領域に屬し、而して一般に考察すれば、其の特殊の領土及び其の特殊の法律制度、其の根本的組織及び其の部分的編成、其の永い時間的設展及び同時に相互に區別し得可き特殊の區域の同種狀態に對する其の衝動力、其の特殊國家的分立及び其の國際的關係を有する國民の國家的に組織せられた共同生活の經濟的區域、一切の特殊經濟及び共同團體並びに國家的財政を抱有する其の具體的なる（現在をも合して）歷史的現象に於ける國民經濟に存す可きである。（Ib., S. 490-491.）。彼れは自然的現象と社會的現象とを區別し、社會的關係を以つて國民經濟學本來の研究對象となし、經濟上の社會的要素は「財」の生產及び分配の關係であると觀、分配の問題と關聯した社會制度の近代的意義を高調してゐる。彼れは此の新版に於いて、彼れが初

め一千八百五十二年に其の著を草する際には全然知ることのなかつた（恐らくあらゆる獨逸の經濟學者も亦、さうであつたであらう）オーギュスト・コントの『實證哲學』（Cour de philosophie positive）を參讀して、彼れの結論と符節を合するが如き點の多いことに驚いたのである。（Ib., S. 516.）。

故には本書の初版及び改訂新版の扉を寫眞版として挿入することゝした。

四

本書に次ぐ彼れの名著『貨幣及び信用』に於いては、彼れは歴史的資料を使用してはゐるが、而も吾人は彼れが歴史學派に屬するの證左を殆んど全く發見し得ざるものと稱せられてゐる。然しながら、彼れはグスタッフ・シュモラーの言ふが如く、自ら歴史家たらずして、歴史的心理學的獨逸經濟學の理論的建設者（der theoretische Begründer der historisch-psychologischen modernen deutchen Nationalökonomie）であつたのである。（Gustav Schmoller, Zur Lt. Tetaturgeschichte der Staats- und Sozialwissenschaften, 1888, S. 207.）。彼れはヘーゲルの歴史哲學によつて感化せられ、而してシュモラー及び獨逸新歴史學派に對して深甚なる影響を與へたものである。前記『貨幣及び信用』の如きは今日猶ほ貨幣、信用及び利子の根本問題に關する無比の名著と仰がるゝ所のものであつて、矢張り彼れの方法論的原理を具體的經濟現象の研究に適用した成果とも云へよう。本書は特に經濟的及び法律的制度の緊密なる相互關係を強調せる點に於いて歴史學派の色彩を濃厚ならしめてゐる。彼れは啻だに國民經濟學と歴史との關係のみでなく、又其の地理學、哲學及び法律學との關係をも強調するものであつた。哲學上及び法律上の練成は洵にクニースを特性附けるものである。是れに由つては彼れは、一方に於いては、國民經濟學が歴史的基礎の上に存し、又存しなければならぬと云ふ一般的結論と等しく、『貨幣及び信用』の前景に立つ獨斷的な定式化及び概念探求に導かれたのである。彼れに取つて本質的なるものは舊國民經濟學に於いて普通であつたやうな單なる抽象に對し、早計且つ虚偽なる概括に對する鬪爭であつた。而して、彼れは其の主たる反對者に非ざる更らに新たなる人々に對してすらも這般の戰を鬪つたのである。彼れは實在の具體的把握を要求した。彼れは心理的集團結束力に對する強い受感性を有して居つた。彼れは總べての歴史的過程を決定する國民精神を深く洞察したのである。彼れの文體は幾分癖のある重苦しいものであつた。彼れは斷じて通俗的なるを得ざるものであつた。而も、斯くて彼れは新たなる概念的定式化に到達するまで絶えず掘り下げて行つたのである。（Schmoller, a. a. O., S. 206-207.）。